マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第2部 根拠を見つける

U04　気持ちの根拠を拾う

（物語文・随筆・詩）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　小説「川の話」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　気持ちの根拠のルール

R04-1　映像化と人物の情報
言動を映像化して読む。前書き・冒頭の人物の立場やできごとは心情の前提（なぜそう感じるのか）になる。

R04-2　心情の根拠は言動が先
心情は「〇〇という言動から□□」と根拠つきで読む。セリフ・行動・表情・語り手の評価（「うっとうしかった」）が一次の根拠。

R04-3　情景は確認に使う
情景描写は心情を暗示することがあるが、必ず対応するとは限らない（明るい景色の中の沈んだ心、重い空の下でひらく心）。言動で決めた心情と合うかを確かめる材料にする。

R04-4　変化は「前・きっかけ・後」
心情の変化を問われたら、変化の前の心情（根拠の言動）・きっかけ（できごと・気づき）・変化の後の心情（根拠の言動）の三つをそろえる。

R04-5　不満・悩み→気づきは傾向
多くの小説はこの流れをとるが、気づかないまま・解決しないまま終わる小説もある。本文に書かれた範囲を超えて「成長した」「立ち直った」と書かない。

R04-6　言葉と行動が食いちがうとき
セリフと行動・表情が逆を向くときは、両方を根拠にする。「～しようとしながらも、～を抑えきれない」のように相反する心情（葛藤）として書く。

R04-7　随筆と詩
随筆は経験と感想の文を分けて読む。詩は作者になりきり（感情移入ではなく同化）、五感の言葉と、くり返し・変化した表現（動作・言い方）を根拠にする。題名と最後の連は手がかりになりやすい。

ルールの番号（R04-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　小説「川の話」

① 高校二年の真帆は、日曜日になると、母に言われて、祖父の入院している病院へ通っていた。部活の練習を早めに切り上げなければならないのが、正直なところ、うっとうしかった。

② その日も、病室に入ると、祖父はベッドの上で窓の方を見ていた。「来たよ」と声をかけると、祖父はゆっくりこちらを向き、「ああ」と言ったきり、また黙った。真帆はいすに座り、スマートフォンを取り出した。友人たちのメッセージが、次々と画面を流れていく。

③ しばらくして、祖父が口を開いた。「あの川で、な……」言葉はそこで止まった。真帆は画面から顔を上げずに、「うん、それで？」と先をうながした。祖父は何かを探すように天井を見上げたが、結局、「いや、いい」と言って目を閉じた。

④ 帰りのバスの中で、真帆は、祖父が言いかけた「あの川」のことを考えていた。祖父が子どものころ、毎日のように川で魚を捕っていたと、母から聞いたことがある。祖父は、その話をしようとしていたのかもしれない。自分は、それを最後まで聞こうともしなかった。窓ガラスに映った自分の顔から、真帆は目をそらした。

⑤ 次の日曜日、窓の外には重たい雲が低くたれこめていた。病室に入ると、真帆はいすを少しベッドに近づけて座った。

⑥ 「この前の、川の話。聞かせて。」

⑦ 祖父は驚いたように真帆を見た。それから、ゆっくりと、言葉を一つずつ置くように話しはじめた。「夏の、朝早くにな……水が、冷たくて……」途中で何度も言葉がとぎれた。そのたびに、真帆は口を開きかけたが、何も言わずに待った。沈黙のあいだ、祖父の目は、どこか遠くの、光る水面を見ているようだった。

⑧ 真帆はスマートフォンを鞄の奥にしまった。

⑨ 話が終わるころ、祖父の声は、来たときよりも少し大きくなっていた。窓の外の雲は、まだ低いままだった。

問　――線部「真帆はスマートフォンを鞄の奥にしまった」とあるが、このときの真帆の心情を、それまでの真帆の心情との違いがわかるように百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　人物の前提**
   ①段落：高二の真帆は、母に言われて見舞いに通う。部活を切り上げるのが「うっとうしかった」＝語り手の評価そのものが一次の根拠（R04-2）。

2. **手順2　変化の前の言動**

②スマートフォンを取り出す／③画面から顔を上げずに「うん、それで？」と先をうながす＝祖父の話に心を向けず、急かしている。

3. **手順3　きっかけ（気づき）**

④段落：祖父は川の話をしようとしていたのに、自分は最後まで聞こうともしなかった、と気づく。窓ガラスの自分から目をそらす＝うしろめたさ。

4. **手順4　変化の後の言動**

⑤いすを近づける／⑥「聞かせて」と自分から頼む／⑦口を開きかけても何も言わずに待つ／⑧スマートフォンをしまう＝祖父の話にきちんと向き合い、ゆっくり聴こうとしている。

5. **手順5　情景はわな**

⑤⑨段落の「重たい雲」は暗い景色だが、真帆の心は祖父へひらいていく。情景から「沈んだ気持ち」と決めると、言動と食いちがう（R04-3）。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
変化の後（言動）	いすを近づけ、聞かせてと頼み、言葉がとぎれても待つ＝話にきちんと耳を傾ける	⑤⑥⑦⑧	◎ 入れる
変化の前（言動・評価）	見舞いがうっとうしく、画面を見ながら話を急かしていた	①②③	◎ 入れる
きっかけ	話を最後まで聞こうともしなかった自分に気づき、うしろめたく思った	④	○ 入れる
情景（わな）	重たい雲が低くたれこめる	⑤⑨	× 心情の根拠にしない
根拠なし	祖父の病気が重いと知って悲しくなった	なし	× 入れない

模範解答

模範解答（百字以内）　88字／100字以内

見舞いをうっとうしく思い、画面を見ながら祖父の話を急かしていたが、最後まで聞こうとしなかった自分を省みて、言葉がとぎれても待ちながら、祖父の話にきちんと耳を傾けようとしている。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
変化の後:言葉がとぎれても待ち、祖父の話にきちんと耳を傾けようとしている	4点
変化の前:見舞いがうっとうしく、画面を見ながら話を急かしていた	3点
きっかけ:話を聞こうとしなかった自分を省みた(うしろめたさ)	2点
「〜していたが、〜している」の形・主述がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「重たい雲のように、沈んだ気持ちになっている。」	情景だけで決めている。⑤〜⑧の言動(近づく・頼む・待つ)と食いちがう。0点。
「祖父の病気が重いと知って、悲しくなっている。」	本文に根拠が無い。0点。
「スマートフォンをやめて、祖父の話を聞こうとしている。」	変化の前の心情(うっとうしい・急かす)ときっかけが無い。10点中4点。
百一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　小説「新しい部長」

① 三年生が引退した日の夕方、顧問の先生が、新しい部長の名前を告げた。夏の大会で負けてから、まだ一週間もたっていなかった。「部長は、佐伯。」

② 拍手が起こった。佐伯は驚いたように目を丸くし、照れくさそうに頭をかいた。「おれ？」と小さくつぶやく声が聞こえた。

③ 僕は、二年生の中で、だれよりも早く朝練に来ていた。ボールの片づけも、後輩への声かけも、自分から引き受けてきた。雨の日も、校舎の階段で一人でダッシュをくり返した。家に帰ってからも、ノートに練習メニューを書きためていた。先輩たちからも「次はおまえだな」と言われていた。だから、名前を呼ばれるのは自分だと、どこかで思っていた。

④ 拍手の音が、やけに遠く聞こえた。僕も手をたたいた。手のひらが、じんと熱かった。となりの一年生が、ちらりと僕の顔を見た気がした。

⑤ 解散したあと、部室の前で佐伯が近づいてきた。まわりに人がいないのを確かめるように、佐伯は声を落とした。「なあ、正直、おれでいいのかな。おまえのほうが向いてると思うんだけど。」

⑥ 僕は、一瞬、言葉につまった。のどの奥に、何か固いものがつかえているようだった。それから、できるだけ明るい声で言った。

⑦ 「何言ってんだよ。おまえ、試合でいちばん声出してたじゃん。おめでとう。」

⑧ 佐伯は、ほっとしたように笑った。「ありがとな。おまえが副部長なら心強いよ。」

⑨ 佐伯は手をふりながら、校門の方へ歩いていった。その背中が見えなくなるまで、僕は手をふっていた。それから、だれもいない部室に入り、ロッカーの扉を思いきり閉めた。大きな音が、がらんとした部屋にひびいた。

⑩ 窓の外では、夕日に照らされた校庭を、一年生たちが笑いながら走っていた。その声が、閉めきった窓ごしに、かすかに聞こえてくる。僕は、ロッカーに額を押しつけたまま、しばらく動かなかった。

問　――線部「ロッカーの扉を思いきり閉めた」とあるが、このときの「僕」の心情を、佐伯にかけた言葉との違いがわかるように八十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

根拠(言動・情景・きっかけ)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80

80字以内(1マスに1字。句読点も1字)

練習2　詩「傘」

① 雨の朝
わたしは　傘を深くさして
だれの顔も見ないように歩いた

② 交差点で
黄色い長ぐつの子が
水たまりをひとつずつ
ふんでいく
ぱしゃん　ぱしゃん
笑い声が
傘の内がわまで入ってきた

③ 雨は　まだやまない
それでも　わたしは
傘を少しだけ持ち上げて
信号の向こうの
ぬれた街を見た

問　――線部「傘を少しだけ持ち上げて」とあるが、ここには「わたし」のどのような心情の変化が表れているか。第一連と比べて、八十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

根拠(言動・情景・きっかけ)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80

80字以内(1マスに1字。句読点も1字)

解答と採点表

練習1　小説「新しい部長」

解き方

1. **手順1　前提（期待）**
   ③段落：だれよりも早く朝練に来て、仕事を引き受け、先輩にも「次はおまえだな」と言われていた。だから自分が呼ばれると思っていた＝悔しさの前提。

2. **手順2　言葉と行動が食いちがう**
   ⑦「おめでとう」と明るく祝う（言葉）。しかし④拍手が遠く聞こえる・手のひらが熱い／⑥言葉につまり「できるだけ明るい声」＝無理をしている／⑨ひとりになって扉を思いきり閉める（行動）。両方を根拠にする（R04-6）。

3. **手順3　相反する心情**
   佐伯を認めて祝おうとする気持ちも本当（⑦の内容は具体的）。同時に、選ばれなかった悔しさを抑えきれない。どちらか一方だけにしない。

4. **手順4　解決していない**
   最後まで気づきや立ち直りは書かれていない（⑩額を押しつけたまま動かない）。「気持ちを切りかえた」と足さない（R04-5）。⑩の明るい校庭は、心情と対照的な情景で、根拠にしない。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
行動（ひとりのとき）	扉を思いきり閉める・額を押しつけて動かない＝悔しさがあふれる	⑨⑩	◎ 入れる
言葉（佐伯の前）	できるだけ明るい声で「おめでとう」＝祝福しようとする（抑えている）	⑥⑦	◎ 入れる
前提	自分が部長に選ばれると思っていた（努力・先輩の言葉）	③	○ 入れる
情景（わな）	夕日に照らされた校庭・笑う一年生	⑩	× 心情の根拠にしない
根拠なし	副部長としてがんばろうと気持ちを切りかえた	なし	× 入れない

模範解答

模範解答（八十字以内）　71字／80字以内

自分が選ばれると思っていたため、佐伯の前では明るく祝福して悔しさを抑えていたが、ひとりになって、選ばれなかった悔しさを抑えきれなくなっている。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
ひとりになって、選ばれなかった悔しさを抑えきれない	4点
佐伯の前では明るく祝福し、悔しさを抑えていた(言葉との違い)	3点
自分が選ばれると思っていた(前提)	2点
「〜が、〜」の形で二つの心情の関係がわかる	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「佐伯が部長になって、うれしい。」	言葉だけを根拠にしている。⑨の行動と食いちがう。0点。
「夕日の校庭のように、さわやかな気持ち。」	情景だけで決めている(しかも対照的な情景)。0点。
「悔しくて、怒っている。」	佐伯にかけた言葉との違い(抑えていた)と前提が無い。10点中4点。

練習2　詩「傘」

解き方

1. **手順1　詩に同化する**
   「わたし」になりきって読む(自分ならどう思うか、ではない)。どこにいる？＝雨の朝の交差点。だれがいる？＝わたしと、長ぐつの子(R04-7)。
2. **手順2　第一連の動作**
   「傘を深くさして」「だれの顔も見ないように」＝人とかかわらないよう、心を閉ざして歩いている。
3. **手順3　第二連＝五感ときっかけ**
   視覚(黄色い長ぐつ)・聴覚(ぱしゃん　ぱしゃん・笑い声)。笑い声が「傘の内がわまで入ってきた」＝閉ざしていた心に、楽しげなものがとどいた。
4. **手順4　第三連＝動作の変化**
   「傘を深く」→「少しだけ持ち上げて」、「だれの顔も見ない」→「信号の向こうの　ぬれた街を見た」。動作の変化が心情の変化の根拠。
5. **手順5　情景は変わっていない**
   「雨は　まだやまない」。天気が晴れたから気持ちが晴れたのではない。「それでも」が、情景とは関係なく心が動いたことを示す(R04-3)。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
変化の後(動作)	傘を少し持ち上げ、ぬれた街を見た＝まわりに目を向けようとする	第三連	◎ 入れる
変化の前(動作)	傘を深くさし、だれの顔も見ないように歩いた＝心を閉ざす	第一連	◎ 入れる
きっかけ(五感)	子どもの楽しげな笑い声が傘の内がわまでとどいた	第二連	○ 入れる
情景(わな)	雨はまだやまない(天気は変わっていない)	第三連	× 心情の根拠にしない
根拠なし	雨がやんで晴れやかな気持ちになった	なし	× 入れない

模範解答

模範解答(八十字以内) 77字／80字以内

人とかかわらないよう傘を深くさして心を閉ざしていたが、子どもの楽しげな笑い声にふれて心がほどけ、雨の中でもまわりの世界に目を向けようとする気持ちになった。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
変化の後:まわりの世界に目を向けようとする(心がひらく)	4点
変化の前:傘を深くさし、人とかかわらないよう心を閉ざしていた	3点
きっかけ:子どもの楽しげな笑い声にふれた	2点
「〜していたが、〜になった」の形	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「雨がやんで、晴れやかな気持ちになった。」	本文と矛盾(雨はまだやまない)。0点。
「子どもがうらやましくなった。」	根拠の言葉が無い(感情移入)。0点。
「傘を持ち上げて、街を見ようとした。」	動作のくり返しで、心情の言葉になっていない。10点中2点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U04 気持ちの根拠（アドバンス）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます